科目区分：造形芸術コース
授業科目名：芸術概論

美術館見学実習を活用した美術鑑賞入門

美術教育専修　上原真依

Ⅰ．授業の概要

「芸術概論」は、芸術文化課程の１年生を主な対象とした課程共通必修科目である。本年は、造形芸術コース 10 名（1 年生）および音楽文化コース 11 名（1 年生 10 名、4 年生 1 名）、生活環境コース 1 名（1 年生）、学校教育基礎コース 1 名（1 年生）の計 23 名が受講した。

1)　授業目的

芸術作品を注意深く観察して、他の作品と比較したり、また歴史や背景を探ったりすることで、作品の面白さを読み解く。

2)　到達目標

・作品をただ眺めるのではなく、作品から芸術家の関心や工夫、当時の社会的背景まで探れる力を養う。

・作品を正確に記述し、人に伝えられる表現方法を身につける。

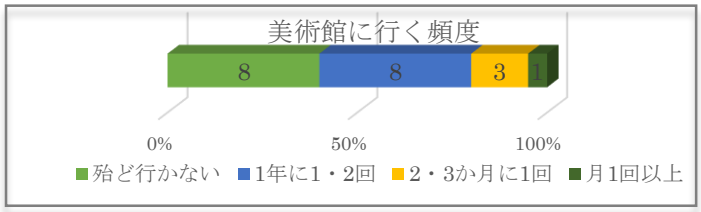
3)　関連するディプロマ・ポリシー

・生涯学習社会を築くため，芸術文化全般にわたる確かな知識と，得意とする分野における専門的知識を修得している。（知識・理解）

・芸術分野におけるさまざまな問題について考察し，幅広い視野で適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

4)　今年度、特に意識して取り組んだこと

美術作品を正しく理解するには、まず美術館などで本物を実際に見ることが重要である。しかし第１回オリエンテーション時のアンケートでは、出席者 20 名のうち 8 割が、「殆ど美術館に行かない」もしくは「年に 1、2 回」と回答した。（下記参照）



美術館などで作品を実見することは、作品の面白さに気づき、作品を積極的に読み取る姿勢を育む基本である。実物を見て作品について考え調べる習慣を獲得すれば、授業時間外のみならず生涯にわたり美術作品を学習し続けられることは言うまでもない。そこで本授業では、実作品を見ることへの関心を高めることを特に意識し①美術館での見学実習を主軸に、②見学先の所蔵作品やコレクションについて解説し、作品鑑賞への関心を高めるとともに、③実物を見た時のメモの取り方、④作品を見るポイントや読み解き方を取り上げた。

5) 授業方法、形態、内容の概要

本授業は先述した取り組みを踏まえ、①作品実見のためのディスクリプションの解説と実践（第 1～2 回）②大原美術館コレクションおよび主要作品である印象派の解説（第 3～5 回）③倉敷市大原美術館での見学実習（第 6～7 回）④美術作品の読み解き方の解説と実践を行った。第 15 回には記述式のテストとまとめを行い、毎回の授業での小レポート、見学実習ワークシートも合わせて総合的に評価を行った。

①ディスクリプションの解説と実践

見学実習では、見た作品から 1 点取り上げて作品鑑賞レポートを作成することを課題としたため、美術品を言語化する手法（ディスクリプション）について解説し、ペア・ワークでその実践を行った。具体的には、1 人が作品を隠した状態で言葉でのみ説明し、もう一人がその説明から想像図を起こし説明者に渡した。説明者がペアの想像図から自分のディスクリプションに足りない箇所を検討・補足することで、作品を言葉で伝える際の客観性を獲得するようにした。

①ルネサンス期作品を対象とした作品の読解

マザッチョ、レオナルド・ダ・ヴィンチなど代表的な画家の作品から、毎回 1－2 点を取り上げ観察・比較した。細部まで鋭く分析して発現させることで、表現の違いから作者の手を判断したり、作者の意図や工夫を読み取る練習を行った。

②大原美術館コレクション・印象派の解説

所蔵作品の中から、特にエル・グレコおよび印象派の作品を取り上げ、制作背景を明らかにしつつその魅力や画法について解説した。特に印象派については、制作当時の革新性を取り上げ、特色を明らかにしながらモネ、ルノワール、ドガの作

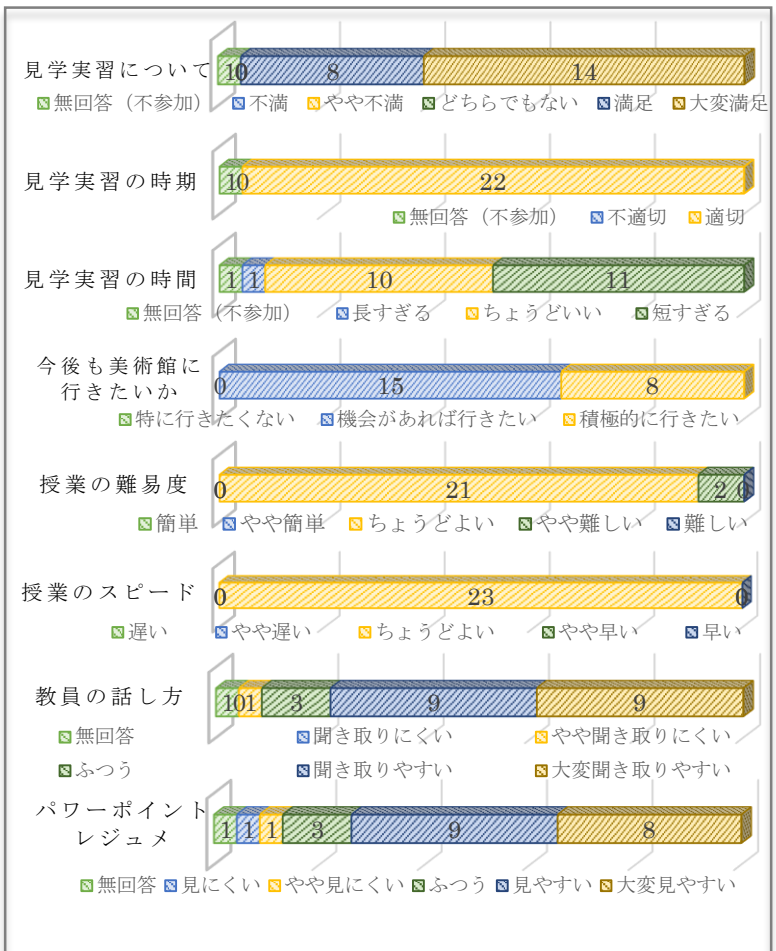
品を紹介した。さらに西洋美術作品を扱う、日本で最初の美術館である大原美術館が、どのように作品を収集したかを説明し美術館見学に対する関心を高められるようにした。

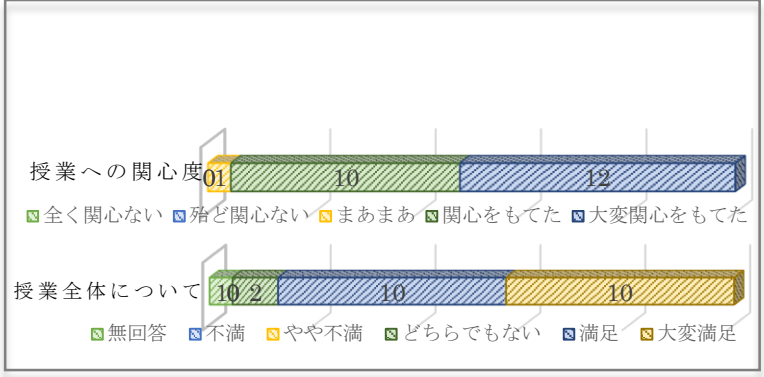
③倉敷市大原美術館での見学実習

第１回にアンケートを行い、受講生の都合を聞いたうえで、12 月 7 日（日）に実施した。見学先選出理由としては、印象派の作品が多く日本の近現代作品もそろっていること、学芸員に解説をしていただけること、美観地区を散策しつつ各自で見学も可能なことが挙げられる。見学当日のスケジュールは次の通り。8：30　愛媛大学正門集合→（大型バス貸切）→11：20 倉敷着、11：30～12：15 大原美術館学芸員に解説、12：15～16：30 大原美術館内自由見学＆各自昼食、再集合→（大型バス貸切）→19：05 愛媛大学正門。費用は一人 5000 円（往復交通費と入館料。担当教員は 15580 円）。12 月は観光シーズン中扱いで昨年よりも観光バス代が 4 万円弱高かったが、学生負担は 5000 円が限度と考え、不足分は担当教員負担とした。

Ⅱ．アンケート結果

アンケートは独自の質問項目で第 14 回授業終了後に無記名式で実施した。質問は選択式 10 項目と、自由記述式 3 項目で、回収率は 100%。集計結果は下の通り。なお紙面の都合上、自由記述回答の同意見はまとめて記した。





[改善してほしい点]（自由記述）

・授業は面白いのですが西洋美術の知識がほぼ無かった私には少し難しかったです。

[見学実習に関して]（自由記述）

・美術館外の美観地区を含め自由に回れてよかったです（7 名）　・楽しかったです（6 名）　・安くて多くの絵が見られて楽しめました（3 名）　・初めて訪問したのでよい経験になりました（2 名）　・もっと時間が欲しいです（2 名）　・予想外の出費でしたが美術に関心を持つきっかけになりました。　・ディスクリプションが実践できました。

[授業全体に関して]（自由記述）

・見学実習が良かったので続けてほしいです（4 名）
・美術に興味がない私でも楽しかったです（2 名）
・1 点 1 点の説明が丁寧で分かり易かった。
・毎回の授業で新しい発見があった。
・地元なので初めてではなかったのですが想像以上に楽しめて新たな発見もありました。

Ⅲ．　総括

1)　アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点

昨年度の反省を踏まえ、見学時期を早め時間を 1 時間弱長くした結果、時期に関する不満は上がらなかった。見学時間については短いという声も多かったが、長い・ちょうどいいという意見もあり、今後検討が必要だろう。パワーポイントの見やすさに関しては、着席する位置や、教室のブラインドが不十分で暗室にできなかったために作品写真がきちんと見えなかったことが原因だろう。今後は教室設営にも留意したい。

2)　授業の目的、到達目標、関連 DP を踏まえた総括

アンケートおよび見学実習に関する取り組み方から、授業の目的や関連 DP の（知識・理解）（思考・判断）はほぼ達成できていると考える。特に実物を見て思考する楽しさに気づき、美術作品への関心を高められた学生は多かった。全員が今後も美術館に行きたいとアンケートで回答しており、授業時間外にも作品を実際に見る機会を自ら設定できるベースを作ることができたと言えるだろう。また今回より作品鑑賞を助ける見学実習用のワークシートを導入した。今後はより学生の関心を高め理解を助けられるようなワークシートとなるよう改良を加え、見学実習をより有意義な機会にしていきたい。